

宮古島環境クラブ、ゴバンノアシを植栽

2012/01/24 09 時 05 分 配信 - 科学・環境 -

宮古島環境クラブ（下地邦輝会長）は22日、平良添道のサガリバナ遊水池で2012年第1回ワークショップを開催し、石垣島を北限とするゴバンノアシの苗木3本を植栽した。



ゴバンノアシの苗木を植栽する
会員ら＝22日、平良添道のサ
ガリバナ遊水

同会によると、ゴバンノアシもサガリバナ科の植物。サガリバナが下向きに花を咲かせるのに対し、ゴバンノアシは上向きに花を咲かせるため、琉球王朝時代は縁起物として屋敷の庭などで育てられていたという。

同クラブによると、宮古島内で自生するゴバンノアシはほとんど見られなくなった。今回、下地嘉手苺の川満アイさん、城辺保良の砂川勇人さんが育てているゴバンノアシを分けてもらい、増殖に乗り出すことにした。植栽作業には会員数人が参加。深さ約30センチの苗床を掘り、1本ずつていねいに植え込んだ。

下地会長は、「今回植え付けたゴバンノアシから種子を採取し、少しずつ本数を増やして、市民にも珍しい花の存在を知らせていきたい。将来は、サガリバナと合わせたバrintニア（サガリバナの俗称）フェスティバルのようなものを開催できたらと思う」と抱負を語った。

同会では6月の開花シーズンに合わせ、同遊水池でサガリバナのライトアップイベントを開催する計画を立てている。